

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 和				公表日	2025年 3月27日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		午前の部と午後の部で利用時間がわかれている為、スペースに問題はない。活動内容に合わせ、活動スペースを広げている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童5名程度に対し必ず支援員が2名以上配置されている。	児童の障害の程度によっては、職員の数人がギリギリに感じることがある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日、清掃を怠らず床拭きやおもちゃの消毒・換気等も含めている。	建物の構造的に柱も多く、子どもが走り回れない為、活動によっては、合わないことあり。その為、天気の良い日は外の活動も取り入れている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		気持ちが落ち着かない児童には、個室にて個別対応を行っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			2025年4月より、職員一人一人に対し個別の面談時間を設け、業務改善や個々のスキルアップを行っていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者にも、寄り添った支援を行っている。毎月、保護者勉強会&交流会を実施している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		意見BOXが設置されている。意見が言える環境が整っている。何かあれば直ぐに対応して頂ける。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		同業者・市役所・センター・幼稚園の方などに直接事業所を見学して頂けた。	見学にこられた方より、アドバイスは受けていないが、今後も「良い」と思ってもらえるよう、様々な工夫や改善を行っていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月会議(虐待防止法・感染予防含め)を実施。その他、職員の育成も兼ねて保護者勉強会にて様々な発達について勉強会を実施。研修がある際には、職員全員に周知している。会議の際に、意見の出し合いや助言を行っている。		
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			行なえているときもあるが、業務内で話し合えない事も多い。そのため、2025年度からは更に職員を増やし話し合いの場を設ける。	

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎日違う活動を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		午前の支援開始前に、ミーティングの時間を設けている。また、ラインなどを使用し周知することあり。	午後の支援開始前に、ミーティングを行う時間が設けられず朝のミーティングで話すことが多い為、午後から出勤の職員に伝えられいことがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		その日行われた支援の振り返りや、気付いた点等を共有することは、当日の業務後にはなかなか時間が設けられない為、翌日の朝のミーティングで行っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		相談支援事業所や幼稚園や保育園と一緒にすることもある。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		定期的実施している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保育、教育等の関係機関と連携して通園に向けてや入学に向けて話し合いや助言等を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者を通してになっているが、支援計画・評価の情報共有を行い、今後も継続して行って欲しい事や関わり方についてなど詳しく詳細を載せている。	今後は、直接小学校との連携も図っていききたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	毎月外出支援を行い、関わりのない子との交流は設けられるよう支援している。小さい子に優しく接する姿や年上の児童に遊び方を教わった時などには「ありがとう」など自然と言える様、支援している。また、近くの公園で地域の子と仲良く過ごすことも見られた。	幼稚園や保育園との交流は、なかなか設けられる機会がなくてきている。今後、少しずつ機会を作っていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		あるふあみの連絡ノートを通し、写真を添えて具体的に伝えている。また、送迎時にもお伝えしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		毎月、保護者勉強会&交流会を実施している為、管理者だけでなく職員と保護者様の距離感も近くなり相談しやすい環境にもなってきた。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		ご契約時には、必ず丁寧に説明を行っている。		

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		毎月、保護者勉強会&交流会を実施し、その都度不安等ないか確認を行い助言している。保護者会に来られない方には、送迎時に対応をしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		毎月、保護者勉強会&交流会を実施し、他己紹介をすることで、保護者同士の距離感も近くなり相談しやすい環境になってきている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れ等、出来る限り速やかに対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		ご契約時に、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を丁寧に説明している。その他、毎月の出欠表に行事予定を記載してお知らせしている。	2025年度より、非常災害時の対応についてHPにも載せる。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		毎月の会議でも、職員に保護者様への伝え方・連絡ノートの文章作成についても配慮する点を周知している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		8月ごろ、9月よりオープンする為地域住民の方に挨拶とパンフレットの配布を行っている。	地域住民の方と毎朝、挨拶等はしているが事業所への招待までは出来ていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		周知・マニュアル化はしている。また、ご契約時丁寧に説明を行っている。その他、児童と散歩時や買い物時に外の避難場所や室内の避難場所を教えている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			2024年9月にオープンした為、社内研修等では周知しているが、実践までは出来ていない。2025年5月頃、消防の方も呼び出して実施する予定。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		ご契約時に必ず、確認を行っている。予防接種は、母子手帳のコピーを頂いている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		ご契約時に必ず、確認を行っている。現在、エビペンなど所持している児童がいない為、医師の指示書に基づく対応まではしていない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		毎月の虐待防止法・感染予防など含め、チャイルドシートの乗せ方なども確認をしている。また、窒息に繋がりがやすい食べ物の周知や確認も行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		見学時やご契約時に、危険回避能力についての確認やシートベルトについて、外してしまわないかの確認もしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットしたことについては、報告書をあげ次に必ず繋げられるよう会議でも職員全員に周知している。	職員一人一人が、意識をして指差し確認・声だし確認をしていく必要がある。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎月、虐待防止について研修を実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			